

三重・宮の西遺跡

- 1 所在地 三重県四日市市中川原二丁目
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)三月～四月
- 3 発掘機関 四日市市遺跡調査会
- 4 調査担当者 春日井 恒
- 5 遺跡の種類 不明
- 6 遺跡の年代 弥生時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(四日市)

宮の西遺跡は、大小の河川によって形成された沖積低地の標高五m前後の微高地上に所在する。市街地から西へ約一・五kmのところ
にあり、急速に宅地化が進んでいる。

発掘調査は、分譲マンションの建設に伴うものであり、調査面積は四五四㎡であった。調査において検出した遺構は畦状遺構、土坑溝であるが、いずれも時期を決定しうる伴出遺物はな

かった。出土した遺物は比較的多く、弥生時代から室町時代のものがあるが、平安時代～鎌倉時代のものが最も多く、次いで奈良時代のものである。また、低地に立地するため木質遺物の遺存状態が良く、多量の木製品が出土している。遺物の内容は、土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗などの土器類が中心で、灰釉陶器には底部に墨書のあるものが六点出土している。他に石帯、木簡、斎串、曲物等が出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「柴田郷長右」

(157) × 22 × 6 019

木簡四点はいずれも調査区の北半の自然堆積土から出土したものである。柴田郷は、『和名抄』に見える伊勢国三重郡の郷名であり、宮の西遺跡は柴田郷内に位置する。

9 関係文献

四日市市遺跡調査会『宮の西遺跡』(一九八八年)

(春日井 恒)



木簡 (1)